

<b>特講・社会福祉学10</b> (スクールソーシャルワーク論)			単位数	履修方法	配当学年
			1単位	S	1年以上
科目コード	DT2210	担当教員	川口 正義		

※ H28 3/5・6のスクーリングに参加できる方のみが原則として1/5までに遅くとも1/31までに履修登録を行ってください。

### ■スクーリングで学んでほしいこと

スクールソーシャルワーク（SSW）は人権と社会正義を基盤とし、児童生徒が学校生活を円滑に送れるようにするための、また教師や学校組織が立案した教育活動を十分に展開できるようにするための方法・技術です。

スクーリングでは今日の学校現場の現状と課題をふまえたうえで、わが国の学校現場で切に求められてきているスクールソーシャルワークの概念、支援方法、役割及び課題について皆さんとともに学び、考えてみたいと思います。

### ■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	学校教育現場を取り巻く現状と課題	児童生徒、保護者・家族、こどもの貧困、教師・学校
2	SSWを導入する必要性、目的と価値、機能	導入に至る経緯、概念、視点、目的、機能、活動スタイル、職務内容
3	教師、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの役割分担	それぞれの役割と違い
4	SSWの実践①	事例の紹介
5	SSWの実践②	事例検討（グループワーク）
6	SSWの可能性と意義	SSWに期待される役割
7	SSW活用に際しての留意点、今後の課題	学校・教職員との連携のあり方、課題
8	質疑応答	社会福祉士への役割期待と課題
9	スクーリング試験	

### ■到達目標

- 1) 学校現場の現状と課題をふまえたうえで、スクールソーシャルワークを導入した必要性と目的について述べることができる。
- 2) スクールソーシャルワークの価値、倫理について解説することができる。
- 3) 学校・教師文化の特徴、及びスクールソーシャルワークの基本的視点と役割、機能、支援方法について説明することができる。
- 4) スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割の相違点、及び連携の必要性につ

いて説明することができる。

5) スクールソーシャルワーカーに必要な資質と専門性について述べることができる。

6) 日本におけるスクールソーシャルワークの今後の課題について述べるができる。

## ■スクーリング評価の基準

---

- ・授業への参加状況50%+スクーリング試験50%（持込みはすべて不可）
- ・試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえたうえで、試験テーマについて自分自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

## ■スクーリング時の教科書・講義の進め方

---

- ・以下の教科書は必ず持参してください。  
日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規出版、2008年
- ・スクーリングにあたって、当日、講義ノート、資料を配付し使用します。

## ■スクーリング事前学習

---

教科書のⅠ章、Ⅱ章、Ⅳ章、Ⅵ章を読んだうえで受講されることを望みます。

## ■スクーリング事後学習

---

学校教育現場とこども・保護者・家庭を取り巻く社会状況に関心を寄せるなかで、スクールソーシャルワークが担うことができる役割と可能性について、さらに学習を深め考えていってください。

## ■参考図書

---

- ・山野則子・峯本耕治編著『スクールソーシャルワークの可能性—学校と福祉の協働・大阪からの発信—』ミネルヴァ書房、2007年
- ・日本スクールソーシャルワーク協会編、山下英三郎・内田宏明・半羽利美佳編著『スクールソーシャルワーク論—歴史・理論・実践—』学苑社、2008年
- ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと—学校ソーシャルワーク実践ガイド—』中央法規出版、2009年
- ・社団法人日本社会福祉士養成校協会監修、門田光司・富島喜揮・山下英三郎・山野則子編『スクール [学校] ソーシャルワーク論』中央法規出版、2012年
- ・山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2012年
- ・門田光司・奥村賢一監修、福岡県スクールソーシャルワーカー協会編『スクールソーシャルワーカー実践事例集—子ども・家庭・学校支援の実際—』中央法規出版、2014年